

平成30年度

# 天塩川シーニックバイウェイ 活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 天塩川シーニックバイウェイ		報告者: 天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議					報告年月: 2019/4/24	
景観	自然環境と地域特性を活かした魅力ある景観づくり	広域的で良好な周遊観光ルートの形成 (主に、ルート内での取組み)	H30					総括
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	
景観	自然環境と地域特性を活かした魅力ある景観づくり	広域的で良好な周遊観光ルートの形成 (主に、ルート内での取組み)	メインコース周辺の景観整備	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本年度に初実施の「R3モニターツアー」のコース設定のためと、同日開催の「TEPPEN-RIDE」の自転車用のコースも視野に入れた、ルート内の地域資源やビューポイント箇所について、ルートメンバーで現地を確認を行った。</li> <li>●実施は各市町村の商工会が中心に、沿道の花植えを実施し、安心・安全・快適なおもてなしの道づくりを目指し、継続的に実施。</li> <li>●川の清掃「天塩川クリーンアップ大作戦」(7月)は、広域でポスターを作成しPRしているが、各地域での個々の取組が実施時期が違い、参加状況などの把握が難しいなどの課題が残った。</li> </ul>
			ルートの景観診断	きた北海道エコ・モビリティ、ルート運営代表者会議	5月中旬～8月末頃 (3回)	6名	-	
			花植え活動、除草、清掃活動	各地域(市町村、観光協会、商工会、地域団体等)	夏期:6月～10月末頃まで 冬期:1月中旬～2月下旬	各地域により	T - 1	
地域	地域特性と歴史・文化を活かした地域づくり	歴史・文化と森林文化の活用	森林資源の活用	きた北海道エコ・モビリティ、ルート運営代表者会議	7月～10月末まで	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域に根付き、末永く愛着を持ってもらえるよう、地元木材を利用したオリジナルサイクルラックを地元で作成し、開発局のサイクルツーリズムの「モデルルート1」のコースを中心に設置した(主に道の駅)。また、要望に応じてルート内外への販売を行った(稚内開建管内道の駅、主要施設など)。それにより、サイクリングコース上に同じラックが点在するようになり、統一感が出た。</li> <li>●ルート内へ訪れる観光客やツアー団体等からのガイドの依頼に対し、昨年度のサイクルガイド研修を受けた方によるルート内のおすすめコースを案内した。地域情報も知っているため大変好評であった。</li> <li>●地元でのサイクリストも増えてきているため、今後もサイクルガイドの広がりに期待できる。今後はルート内のガイドを登録しHPなどで紹介するなど、広めていく工夫を行うことが必要と考える。</li> <li>●「北海道」と命名した松浦武四郎がH30年に生誕200年を迎え、北海道命名150周年とあわせて、武四郎のゆかりの地を巡るサイクリングイベントを名寄市を中心に実施した。地元参加者を中心にしたイベントであったが旬な企画として大変好評であった。</li> <li>●「川」に親しんでもらう企画として、初めて旭川開発建設部治水課・名寄河川事務所とルートで「ミズベリング」を企画していたが、悪天候のため中止となった。次年度以降も引き続き、実施を検討する。</li> </ul>	
			地域ガイドの発掘・育成	ルート運営代表者会議	ガイド実践 ①7/26(木)-28(土) ②8/19(日) ③9/22(土)-24(月祝)	ガイド10名		-
			「森林」&「水」の教育 (ミズベリング)	ルート運営代表者会議	7/7(土) (*悪天により実施中止)	-		-
			「松浦武四郎」にまつわる地域の文化伝承 (武四郎ライド2018)	なよろ観光まちづくり協会	8/19(日)	参加者50名 ガイド8名 スタッフ10名		-
観光	地域産業と特性を活かした広域的な観光空間づくり	きた北海道エコ・モビリティ事業の推進 (主に、ルート内外を視野に入れた取組み)	ツアーの実施 (TEPPEN-RIDE 2018、R3モニターツアー)	きた北海道エコ・モビリティ、ルート運営代表者会議	9/22(土)～24(月祝)	約30名	T - 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「きた北海道エコ・モビリティ」事業の継続4年目の年であった。「TEPPEN-RIDE2018」の他、様々なアクティビティとJRなどを活用した「R3モニターツアー」を同日に実施した。目の行き届いたサポートと心あるおもてなし、安全管理などの評価を頂いた。宗谷ルートを含め、近隣の地域団体・自治体・行政・企業等、多機関との繋がりが深まり、顔の見える連携体制が構築されたことが、何よりの成果であった。</li> <li>●東京のサイクルカフェ2店舗にて「北海道サイクリングフェア2019」を開催した。きた北海道エコモビリティの取り組み紹介イベント、パネル展示・パンフレットの配布、特産品の販売、特産品を使用したカフェメニューの提供などを行い、大変好評に終了した。</li> <li>●オリジナルサイクルラックを、休憩ポイントの主要箇所でもあるルート内の道の駅等に設置できた。稚内開発建設部管内でも購入いただき、サイクリングコース内に共通で設置できた。</li> <li>●共通で使用できるルートロゴを使用した名刺を作成し、ルートPR、新たな仲間の増強、活動への参画、ルートに対する意識醸成を図った。</li> <li>●指定ルートとして初めてのPRとして名寄のイベント(テッまつり)に始まり、幌加内のそば祭り、道庁赤レンガでシーニックのPRをパネル等にて行った。物産販売等もあったため、立ち寄り箇所も多く感じた。(候補ルート時より継続事業)</li> <li>●今年度は、新たな情報拠点の設置までには至らなかったが、情報が入手しやすい主要地点となる場所での情報拠点の設置を検討したい。</li> <li>●本年度に初実施の「R3モニターツアー」のコースの設定を行った。また、「TEPPEN-RIDE」のコースはサイクルツーリズムのモデルコース1をベースにしたが、立ち寄り箇所などを考慮したコースとして見直した。</li> </ul>
			情報発信の強化 (PRイベントの実施)	きた北海道エコ・モビリティ、ルート運営代表者会議、さっぽろサイクルラボ、北海道エコ・モビリティ研究会	2/15(金)-3/17(日) 東京(南青山、渋谷)	-	T - 3	
			勉強会等の開催	-	-	-	-	
		ルートオリジナルロゴの作成 (名刺の作成)	ルート運営代表者会議	6月～継続	-	-		
		連携ポスター	-	-	-	-		
		各地イベントでのルートPR	ルート運営代表者会議、道北観光連盟、旭川開発建設部	①7/29(日)名寄(天塩川) ②9/1(土)・2(日)幌加内 ③11/1(木)・2(金)札幌(道庁赤レンガ)	スタッフ数 ①8名 ②15名 ③30名	-		
		情報拠点の設置	-	-	-	-		
		ご当地グルメの開発	-	-	-	-		
		地域産業の活用	道の駅との連携	ルート運営代表者会議、旭川開発建設部	7月中旬～10月末頃	各地域により		
		広域的で良好な周遊観光ルートの形成 (主に、ルート内での取組み)	メインコースの設定	きた北海道エコ・モビリティ、ルート運営代表者会議	5月中旬～8月末頃	10名		
ツアーの実施	-	-	-	-				

# 天塩川シーニックバイウェイ

Teshio River Scenic Byway

活動名：花植え活動、除草、清掃活動

- 【概要】 国道40号の沿道のおもてなしの道づくり。ルート of 活動団体である風連町商工会（女性部）が中心となって取り組み始めてから20年目となる。水気がなくなり、固くなった植樹柵の土を起すのが女性だけでは大変であったが、力仕事を男性陣、花植えなどの作業を女性陣など、役割分担し効率よくスムーズに実施した。沿道（歩道と路肩）のごみ拾いも行った。花の道づくりへの参加者を募りたいこと、取り組みをもっと知ってもらいたいという声もあり、冊子「Scenic Byway」にて紹介した。
- 【日時】 2018年6月14日（土）6時～9時頃まで
- 【場所】 名寄市風連町本町 道の駅もち米の里☆なよろから、国道40号を100m程過ぎたあたりから約1.5km（JR風連駅周辺まで）
- 【主催】 風連町商工会（女性部・青年部）、旭川開発建設部・土別道路事務所、ルート事務局
- 【参加人数】 32名



▲花植えは女性が中心に行い（左）、沿道の清掃や固い土を起す作業、プランターを運んで設置などの力仕事は男性陣（右）。

▲作業終了後に全員で記念撮影。笑顔でいっぱいの花の道づくり。

# 天塩川シーニックバイウェイ

Teshio River Scenic Byway

活動名：ツアーの実施＜TEPPEN-RIDE 2018、R3モニターツアー＞  
 （きた北海道エコ・モビリティ事業の推進）

**【概要】** 宗谷シーニックバイウェイと連携し、旭川から稚内の宗谷岬まで自転車で3日間、総距離約320kmを走るサイクリングイベント「TEPPEN-RIDE」と同時に、道（Road＝自転車・歩く）と川（River＝カヌー）と鉄道（Rail＝JR宗谷本線に乗車、駅弁）が並行する地域性を活かして、3つのRを繋ぎ、美しい景観を見て＆自然に触れて遊び＆美味しいものを味わいながら、日本のてっぺんを目指す「R3モニターツアー」を実施。TEPPENライダーを応援したい人向けのバスツアーを旅行会社で別途企画されたため、3種3様のツアーが同時開催となった。

**【日時】** 2018年9月22日（土）～24日（月祝）

**【場所】** 1日目：旭川市～名寄市、2日目：名寄市～中川町、3日目：中川町～稚内市

**【主催】** きた北海道エコ・モビリティ（天塩川SBW／宗谷SBW／SBW支援センター）

**【参加人数】** TEPPEN-RIDE 11名、R3モニターツアー 12名、応援バスツアー 9名  
 ＊サポートライダー・スタッフ 15名（＊日により変動あり）



▲エソ鹿革でお財布作り体験（右上）、R3ツアーはカヌーで北海道命名の地へ。他ツアーと合流（中）、JRの旅にはやっぱりご当地駅弁！（右下）



▲他参加者の応援で出発（上）  
 JR宗谷本線へ自転車の輸送（下）

▲全参加者で毎日懇親会！（上）  
 宗谷丘陵も電動アシスト自転車で楽々（下）

▲日本のてっぺん「宗谷岬」で全参加者で記念撮影

★3つのツアーが同時進行だったため、スタッフの情報共有を徹底した。目の行き届いたサポートと心あるおもてなし、安全管理などの評価を頂いた。別々のツアーに参加している同士が顔を合わせて交流できる機会があること、それぞれの目的に沿った内容であったことなど、どのツアーも大変好評であった。

# 天塩川シーニックバイウェイ

Teshio River Scenic Byway

活動名：情報発信の強化（PRイベントの実施）  
（きた北海道エコ・モビリティ事業の推進）

- 【概要】サイクリストへの情報発信強化の一つとして、東京のサイクルカフェ2店舗にて「北海道サイクリングフェア2019」を開催した。きた北海道エコモビリティの取り組み紹介イベント、パネル展示・パンフレットの配布、特産品の販売、特産品を使用したカフェメニューの提供などを行い、大変好評に終了した。
- 【日時】2019年2月15日（金）～3月17日（日） ＊イベントは2月15日のみ
- 【場所】OVE（オーブ：東京都港区南青山）、TORQUE（トルク：東京都渋谷区渋谷・渋谷ストリーム）
- 【主催】きた北海道エコ・モビリティ、ルート運営代表者会議、さっぽろサイクルラボ、北海道エコ・モビリティ研究会
- 【参加人数】イベント参加者 約60名（in OVE）



▲イベント当日：名寄・美深・中川などの食材を使った特別メニューの提供（左）、きた北海道エコ・モビリティの取り組み紹介・TEPPEN-RIDE2019の案内（右上）、会場の様子（右下）



▲各会場のパネル展示の様子：OVE会場（上）TORQUE会場（下）

**北海道サイクリングフェア2019**  
Hokkaido cycling fair  
2.15 → 3.17

北海道で遊んでいるサイクル・ツーリズムの活動について広く知ってもらうため、「北海道サイクリングフェア2019」を行います。北海道の風景を空したパネル展や美味しい北海道食材を使った特産品販売や東京・南青山と渋谷の2会場で行います。

会場：OVE（オーブ）  
東京都港区南青山4-8  
HEP57プラザ南青山1F  
TEL:03-4331-1318

会場：TORQUE（トルク）  
東京都渋谷区渋谷1-11-1  
渋谷ストリーム4F  
TEL:03-4331-1318

**CHECK! パネル展 & 特産品販売開催!**  
北海道の雄大な自然や歴史的文脈の中で、サイクリングの機を導いたパネル展及び、美味しい北海道食材を用いた特産品販売を行います。

**先着200名様**

アンケートにお答えいただいた方には素敵な景品をプレゼント!

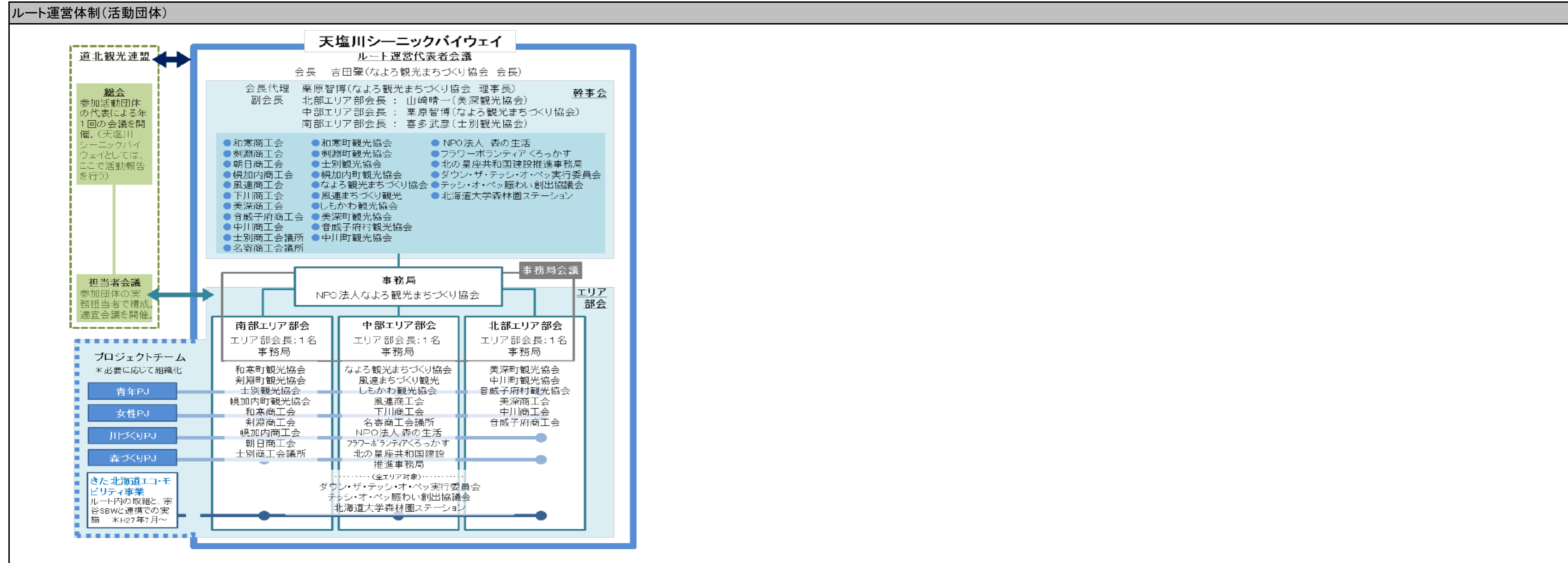
展示期間 2/15(金)～3/17(日) 期間 2/15(金)～3/17(日)

3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 天塩川シーニックバイウェイ	報告者: 天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議	報告年月: 2019/4/24
----------------------	------------------------------	-----------------

**活動団体**

和寒町観光協会／和寒町商工会／剣淵町観光協会／剣淵町商工会／士別観光協会／士別商工会議所／朝日商工会／幌加内町観光協会／幌加内町商工会／NPO法人なよろ観光まちづくり協会／NPO法人風連まちづくり観光／名寄商工会議所／風連商工会／NPO法人しもかわ観光協会／下川町商工会／美深町観光協会／美深町商工会／音威子府村観光協会／音威子府村商工会／中川町観光協会／中川町商工会／NPO法人森の生活／フラワーボランティアくろっかす／北の星座共和国建設推進事務局／テッシン・オ・ベツ賑わい創出協議会／ダウン・ザ・テッシン・オ・ベツ実行委員会／北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林園ステーション



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
地域の運営に関わる事項	ルート運営代表者会議			●6/6										
	ルート幹事会、事務局会議	●4/24 事務局		●6/14 事務局	●7/6 事務局		●9/15		●11/20 事務局		●1/9 事務局		●3/1 事務局	
	ルート担当者会議	●4/24					●9/14							
	その他	●4/23 きた北海道エコモビ関係者会議	●5/23 きた北海道エコモビ関係者会議		●7/9 きた北海道エコモビ関係者会議	●8/20-21 ルークス氏視察・意見交換会	●9/22-24 TEPPEN-RIDE、R3ツアー、応援バスツアー実施(宇谷SBWと連携)	●10/5 道北ブロック会議、道北フォトコン連携会議			●1/29 きた北海道エコモビ関係者会議、道北フォトコン連携会議		●3/6-7 篠原先生視察。ルート関係者会議	

ルート名称: 天塩川シーニックバイウェイ	報告者: 天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議	報告年月: 2019/4/24
----------------------	------------------------------	-----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政の運営に関わる事項	行政連絡会議・協働型道路管理マネジメント会議の実施			●6/19 幌加内協働型道路マネ検討会	●7/6 幌加内協働除草作業: 1回目	●8/27 幌加内協働除草作業: 2回目						●2/12 幌加内協働型道路マネ検討会 ●2/26 上川北部協働型道路マネ検討会	●3/12 行政連絡会議	

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称:天塩川シーニックパイウェイ	報告者:天塩川シーニックパイウェイルート運営代表者会議	報告年月: 2019/4/24
---------------------	-----------------------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成29年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	自然環境と地域特性を活かした魅力ある景観づくり	そばの花ビューポイントの除草・清掃作業(幌加内)	7/6(金)	旭川開発建設部、幌加内町(住民、農家、観光協会、自治体等)	地域で設定したそばの花のビューポイントのうち、国道275号において、沿道の除草作業を地域と時期を調整して道路管理者の機械除草を行った。時期調整により、同時期に雑草のない美しい景観が広がる効果が見られた。また、今年はハンドカッターで沿道の人力除草作業も行った。ゴミ拾いも同時に行い、今後も継続的な実施を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除草・花植えともに、現在は全地域での実施ではないが、上川北部の他地域でも同様に展開の可能性はある。</li> <li>・ルート(地域)の動向や意向をくみつつ、沿道の景観向上に向けて、必要な箇所をピックアップし、できることから優先順をつけて実施していきたい。</li> </ul>	
		国道40号の沿道の花植え(名寄市風連)	6/14(土)	旭川開発建設部・土別道路事務所、名寄市風連町:住民、商工会女性部・青年部、自治体)、ルート事務局等	道の駅もち米の里☆なよろを過ぎた辺りから約1.5kmの沿道の植樹柵とプランターで、おもてなしの道づくりの花植えを行った。植樹柵に水気がないため、土が固く花が植えられず、商工会女性部では力が足りない部分を、事務所職員等で土起こしを行い、地域から感謝の声があった。今後も継続的な実施を目指す。		
地域	地域特性と歴史・文化を活かした地域づくり	サイクルラックの設置における道の駅との調整	-	-	-	本年度は特にないが、ルート(地域)のみでは、内容によっては調整に困難で時間を要することもある行政連絡会議の関係機関や道の駅などとの連絡・調整は開発局の強みである。日頃からルートとの密な情報共有を心掛け、ルートの取り組み等に合わせた情報発信などを心掛けていきたい。	
観光	地域産業と特性を活かした広域的な観光空間づくり	きた北海道エコ・モビリティ(TEPPEN-RIDE、R3モニターツアー)に関する関係機関との調整	7月中旬～9月	旭川開発建設部、北海道サイクルツーリズム検討委員会、きた北海道エコ・モビリティ	ツアー実施に合わせて、広報PRの支援を行った(パンフレットの配布とポスター掲示)と、サイクルツーリズムで設定されたモデルコース1号のPRを合わせて行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進的な取組である「きた北海道エコモビリティ」において、取り組みの継続に向けた地域活動団体との密な情報共有を図り、内容により積極的に協力していく。</li> </ul>	
		イベント会場でのシーニックPR支援	①9/1(土)・2(日) 幌加内 ②11/1(木)・2(金)札幌(道庁赤レンガ)	旭川開発建設部、ルート運営代表者会議、道北観光連盟	観光客が4万人程集まるイベント「幌加内新そば祭り①」と、道庁赤レンガでの道北観光連盟主の特産品販売ブースと一緒②に、シーニックPRブースを設置支援した。道路事業のパネル展とあわせて、PRの相乗効果を狙い、北海道開発局のサイクルツーリズムの紹介パネルの設置も、ルートのパンフレット配布等と一緒にを行った。		
その他							